

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念を策定している。		地域住民の皆様にも親しまれ、信頼される事業所であり続けるように今後も継続して取組んでいきたい。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「ゆっくり いっしょに 楽しく豊かに」をモットーにケアの統一を話し合い取り組んでいる。		管理者と職員の温度差を少なくし、気持ちの疎通を図る。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	2・3ヶ月ごとの運営推進会議の開催、「すぎの子の家たより」の掲示板への掲示を通して、ご家族・地域住民との交流を図っている。		掲示板を利用した広報活動の継続、さらには運営推進会議参加メンバーの拡大を目指す。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩など外出時のあいさつ、冬期間の除雪の協力などを行っている。		職員・入居者とも今後も笑顔でより近くに感じていただけるように接していきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の一員として、行事(ジンギスカンパーティー・盆踊り・古紙回収)に参加している。		今後も積極的に町内行事には参加していきたい。また事業所から地域に発信するような行事も検討していきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域に向けた啓蒙・啓発活動は実施の機会を設けることができず行われていない。		現在実施している学習会等に地域の方にも参加していただけるように内容を検討し案内していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	日常行っているケアを振り返る機会と考え自己評価に取り組んでいる。また次年度に向けての課題を見出す機会でもある。		課題として明らかになった項目については、改善に向け取り組んでいく。
8 運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を定期的開催し、そこで得られた意見・要望については、可能な限り反映していけるように取り組んでいる。		定期的な開催の継続、さらにより活発な会議となるように取り組んでいきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所の実情、取り組みの状況を機会があるごとに報告している。		今後も継続していく。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	資料を読んだり、研修に参加したりしているが、現在対象となる方はいない。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員各自の自覚と必要に応じカンファレンスを行い防止に努めている。		高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を得て、全体に還元していく。
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に家族に時間を掛けて説明し理解を得ている。		契約時のみならず、必要時に家族と話し合う機会を作り、対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満、苦情があった場合は、思いを受け止め、内容により検討し対応している。		今後も継続していきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来訪時または、必要に応じ電話・手紙やケースカンファレンスで日々の生活状況と健康状態について報告している。また金銭管理は、入金時や希望時に出納帳で報告しサインをいただき、年末に1年分の領収書をお返ししている。		定期的なケースカンファレンスを行いたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見・苦情の発生要因を分析し、課題を見出し検討し、取り組んでいる。		今後も継続していきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的カンファレンスや必要時に機会を持ち話し合いやアンケートなどを行っている。		今後も継続し、意見を出し合え、話し合いのできる職場作りを行っていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況により遅番・早番体制を検討し対応している。状況によりより柔軟な対応を行いたい、人員的に無理なのが現状である。		今後もできる限りの調整に努めていきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動に関しては、家族へは「すぎの子の家たより」で知らせるが、入居者には知らせず、安心した生活が継続できるように配慮している。職員の異動については、必要最小限にとどめ、馴染みの関係作りを行っている。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修・勉強会への参加、また法人外の研修にも順番で公平な参加・報告を行っている。		各職員年1回の研修参加を目指し、調整を行いたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域同業者との交流は少ないが、同一法人内での交流は、合同学習会などで図られている。また研修会や学習会に参加の際 情報や意見の交換を行っている。		今後も継続していきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	特にストレス軽減に向けた取り組みは行われていないが、年3回ほど法人全体の会合が行われている。管理者とのコミュニケーションは適宜行われている。		今後も継続していくことを希望。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	年2回各自の自己評価を行い、その後面談を行っている。また必要時には、アンケートなどで状況把握に努めている。		今後も継続していくことを希望。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居に向けて了解を得た上で、可能な限りあらゆる方面からの情報収集を行い、本人・家族との面談も必ず設けている。		今後も継続していきたい。
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	必要に応じて 電話や面談を行っている。またセンター方式のアセスメントを活用して理解に努めている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	相談時には状況を伺い、アドバイスを行っている。		今後も継続していきたい。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	入居に際しては、まず環境に慣れていただけるように家族と相談しながらケアを提供している。		今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	入居者の尊厳を大切にしながら、料理などの場面で教えを受けたり、目線を同じくして過ごす事を大切にしている。		今後も継続していきたい。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	家族にも入居者の状況を機会あるごとに伝え、スタッフとともに支えていくことを大切にしている。		今後も継続していきたい。
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	センター方式のシートの活用や情報を収集し共有する中で、入居者が安心してホームで生活することができるように支援している。		今後も継続していきたい。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	馴染みの方の来訪などで関係が継続されている。馴染みの場所については、ほとんど行かれることはないのが、現状である。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	常に入居者の個性・行動などを念頭に置き、距離感を考えながらケアしている。 時には口論もみられ仲介している。		今後も継続していきたい。 入居者同士がお互いを思いやり、支え合う姿をみることができ ようなフローアでありたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用終了後も必要に応じて訪問したり、連絡をとっている。		今後も継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者本人の思いを大切にケアしているが、本人が思いを表現するのが困難な場合は、家族の意見も取り入れケアしている。 ケアプランも本人の思いに添ったものと心掛けている。		今後も継続していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の情報収集(センター方式)をできる限り行っている。		今後も継続していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ケアプランの第3表を作成し、各入居者の生活を支えている。		今後も継続していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ全員で、思いや気付きを話し合い、ケアプランに反映させている。その後 各担当者がプランを作成し、介護支援専門員がアドバイスをを行っている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	一定期間毎の見直しも行っているが、必要に応じての見直しも行っている。 見直しの流れも 各担当者がまずプランニングし、介護支援専門員がアドバイスをを行っている。		今後も継続していきたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	介護記録、健康管理ファイル、家族向けファイルなどに情報を分類して記入しているので、必要な情報が引き出しやすく、活用できる。		今後も継続していきたい。 記録についての学習を続け、適切な表現・言葉遣い、簡潔な文章で正確に情報が伝わるような記録を目指していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	入居者や家族の状況により 受診時は付き添ったり、車を用意したりと対応している。		現在ショートステイを受け入れることはできないが、今後研修に参加しショートステイにも対応できるような体制作りを行ってきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内会活動への参加、講習会や査察を通しての消防署とのかわり、などを行っている。		今後は、ボランティアの導入や地域との積極的なかわりを持っていきたいと考えています。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	同一建物内の他事業所(認知症対応型通所)と行事を行ったり、遊びに行き来したりしている。		今後より活性化していきたいと考えている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特に動いてはいない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問診療利用者にはスタッフがつき日頃の状況を伝えている。また医療機関を受診される場合は、家族もしくはスタッフが付き添い、必ず添書を用意し必要な情報を口頭だけではなく文書で伝えている。		今後も継続していきたい。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医の指示や家族よりの希望があった場合は、対応している。受診時の添書や直接相談したりしている。		今後も継続していきたい。
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職が常勤として勤務している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、ホームでの状況を伝える介護添書を用意し、入院中は病棟でのカンファレンスに参加するなど病状の把握に努め、早期退院に向け動くようにしている。		今後も継続していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	まだはっきりとした方針ができていない。常に主治医・家族と話し合いを持ち、方向性については全員で話し合っている。		今後より細かな方針を取り決めた上で、個々のケースについての検討を行う必要があると思われる。資料や経験談をもとに当ホームで可能な対応について検討予定である。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	常に「できること、できないこと」は話し合っている。終末期に対する支援についての取り組みを具体化していきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え時は、自分たちが知り得た情報・思いをすべて介護添書に込めている。		今後も継続していきたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	常に個人情報保護を考え、声掛け対応している。 また記録物や文書などの扱いにも十分留意している。		各人の尊厳を守るためにも、介護のあり方や言葉掛けの仕方に今まで以上に注意深く対応していきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の思いを汲み取ることができるように寄り添いながら、ゆっくり傾聴し、本人が安心・納得できるように心掛けている。		入居者を全人的に捕らえ、思いを汲み取っていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかなりズムはスタッフがさりげなく取っているが、そのことを気付かれないように、あくまで入居者主体で生活を組み立てている。		業務多忙時も入居者のペースを大切にケアしていくことを常に確認しながら日々の業務に携わっていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	整容に対する支援は行っている。 利用・美容に関しては、希望の美容室に行かれる方や訪問美容を利用される方など状況により本人・家族の希望により対応している。		今後も継続していきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しく食事ができるようにスタッフがさりげなくサポートしている。 また可能な部分は、下準備・盛り付け・食器拭きなどを入居者とともにしている。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在 お酒やたばこを飲まれる方はいません。各入居者の状況に合わせて 個別対応を行っています。ただ糖尿病など食事に制限のある方の対応には、苦慮しておりません。		今後も継続していきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	食前食後の声掛け、排泄パターンを知った上での時間誘導、ポータブルトイレの設置や習慣となっている排泄用バケツの設置など個別に対応している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日や時間帯には関係なく入浴に対応している。ただ夜勤帯での入浴希望は、現在無いが対応は難しいと思われる。また声掛けしても拒否が多いのが現実であり、是非入浴が必要と思われる入居者には、朝から対応に注意して関わっている。		今後も継続していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動(散歩・体操・歌など)での心地よい疲労感の中、午後からはゆったりとした時間作りを心掛け、安眠できるように考えている。		今後も継続していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	台所仕事、裁縫、体操の声掛けなどできることを大切にしながらのケアを提供している。		今後も継続していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんどの方は金銭管理はできないが、可能な方は家族の協力の下で所持している。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は、近隣への散歩や冬期間はドライブなどを行っている。また帰宅願望の強い入居者には、可能な限り付き添い出かけることにしている。		今後も継続していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者の高齢化とともに介護度も上がり、難しいのが現実である。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があったときには、電話などの対応をしている。また本人から希望が特にきかれない場合でも精神的に不安定であったり、家族の力が必要と感じた時は電話をしている。ただし事前に家族の理解を取っています。		今後も継続していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時は、笑顔で挨拶し、お茶を提供しながら近況を報告したり、家族の思いを伺ったりしている。		今後も継続していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止事項は配布されている。入居者の心身の状況を踏まえ適切なケアを提供しており、拘束は行っていない。		今後も継続していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	基本的に施錠はしていない。ドアの開閉がわかるようにチャイムをつけ対応している。入居者が安心して落ち着いて過ごす事ができるように、訴え・不安などを傾聴したり、好みのビデオを鑑賞したりしながら対応している。		今後も継続していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常にさりげなく所在確認を行っている。 夜間は、睡眠を妨げないように定時に巡回を行い確認している。		今後も継続していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	フロア内は、危険物を高所に上げるなどでリスク管理をしているが、各入居者の居室内については、それぞれの状況に応じた対応を行っている。		今後も継続していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	想定できるリスクを考え、スタッフで共有し対応している。 事故発生時は、報告書を書き、家族へも報告し、対応策を考えている。 勉強会、マニュアルなどで対応の勉強をしている。		今後も継続していきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	講習会や研修会に参加するなどして事故発生に備えている。 研修会参加後の報告・伝達も行っている。 また症状と対応方法のマニュアルがあり、確認している。		今後も継続していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の消防設備の点検の際に火災時の対応を学んでいる。 また地域の方との交流を持ち、協力が得られるように心掛けている。		今後も継続していきたい。
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族来訪時に、現在の精神的、身体的状況について適宜説明し、今後予想されるリスクについても情報を共有し対応について話しています。		スタッフ1人1人が、常に入居者の状態を把握し、家族来訪時に伝えることができるように努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>特変については、個人記録や健康管理ファイルに記入し、申し送りを行い、対応している。</p>	<p>適切な記録の記載により、スタッフ全員が情報を共有することが重要である。</p> <p>特変時は、速やかに看護師に報告し、指示を受ける。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>健康管理ファイルに一覧表は作成しているが、把握しきれないのが現状である。</p>	<p>健康管理ファイルを熟読し、薬の効用、副作用、用法、用量について理解を深めたい。</p> <p>誤薬については、今後も気をつけていきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>毎日の送りの中で排便状況の確認を行っている。</p> <p>毎朝ヨーグルトを提供したり、各入居者別に腹部マッサージ、下剤調整などを行っている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後 声掛け・誘導し口腔ケアを行っている。</p> <p>各入居者の状況に合わせて介助している。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p> <p>拒否がある入居者の対応については工夫が必要である。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量については、毎食全員分を観察し記録している。</p> <p>必要に応じて水分量も量っている。食事接種量が少ない時は、嗜好にあわせ代替品を提供し捕食の配慮をしている。</p> <p>定期的に管理栄養士の専門的アドバイスや学習会を行っている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>次亜塩素酸ナトリウムを希釈し、1日2回手に触れる箇所(便座・手すり等)の消毒を行っている。又、感染マニュアルを作成し周知している。インフルエンザの予防接種も全員受けている</p>	<p>発生時は、手洗い・うがい・マスクの使用も徹底していく</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	食中毒の学習会を開催し、マニュアルも作成してある。まな板等の調理器具の消毒や食品を消費期限内に使うことも徹底している		継続していく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	玄関前にはプランター等を設置している。又、建物前の掲示板に『すぎの子の家新聞』を掲示することによって、近隣の人々に親しんでいただくよう工夫している		今後も継続していく
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	心の歌を聴く・季節の歌を歌う・居間に花を飾る・装飾等で和やかな空間を演出している		装飾については、入居者とスタッフが共同で作成したもの等を使用するなど、工夫していきたい
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	居間から離れたベランダ前にイスを設置し、休憩や談笑に使用できるよう配慮している		利用機会を増やしていきたい(入居者の不穏時や他入居者とのトラブルの際の避難場所としても)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	機能性を犠牲にしない範囲で入居者の使い慣れた調度品を設置し、心地よい居室作りに努めている		入居者の精神的・身体的状況に合わせて、使いやすい部屋・居心地の良い場所となるよう努めていきたい
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	居間や居室・浴室等は常時換気扇を回しており、居室や居間の暖房は入居者の希望に応じて調整している		冬期間は、濡れタオルを干す等湿度調整にも配慮していきたい。入居者一人一人が快適に生活できるよう、入居者の声に耳を傾けていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項 目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	廊下やトイレ・浴室には手すりがあり、必要時に使用している	建物の改築は困難な為、入居者の見守りや介助等の面を強化させたい
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	コミュニケーションが困難な場合もあるが、スタッフが積極的に仲介することにより、大きなトラブルを回避しています	申し送りやカンファレンス等で、スタッフ間の連携を深め、現状以上に尽力していく
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	中庭・玄関前のベンチ等を使用し、お茶を飲んだり談笑し気分転換を図れるよう配慮している	冬期間は1階フロアの利用を増やす等、活用を検討していきたい

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

静かな環境で、入居者に穏やかにゆったりと生活していただけるようケアを行っています